



東北工業大学
同窓会ニュース

2024.SEP

vol. 28

TOHOKU INSTITUTE
OF TECHNOLOGY

T

Kodai

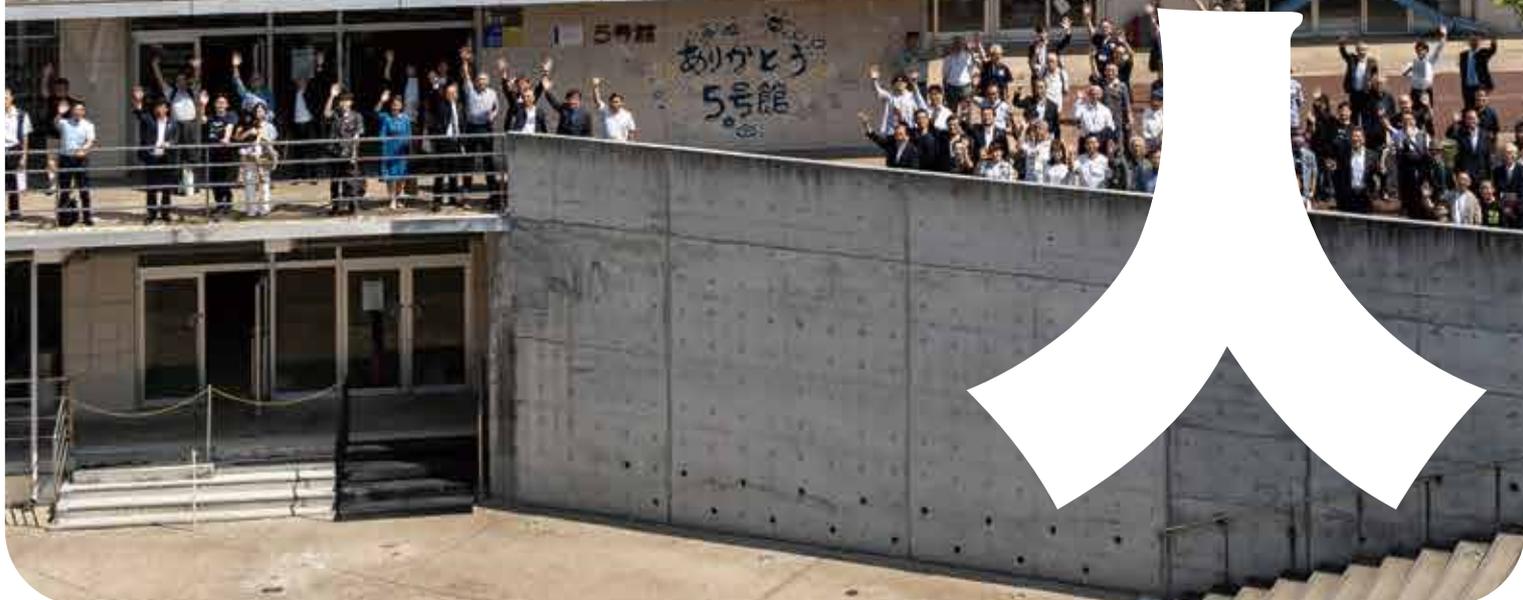
Contents

- 同窓会会長挨拶 秋元 俊通 P1
- 恩師からの便り 志田 正男氏/菊地 良覺氏 P2
- 新学科長ご挨拶
 - 情報通信工学科 佐藤 篤氏 P3
 - 都市マネジメント学科 菊池 輝氏 P3
 - 建築学科 船木 尚己氏 P4
 - 生活デザイン学科 岸本 誠司 P4
- 支部活動等報告
 - 青森支部/山形支部 P5
 - 関東圏支部/職域支部「高原会」 P6
 - 工大杜の会（土木系学科同窓会） P7
 - 尚建会（建築学科同窓会） P8
- TOHTECH2023 募金報告と御礼/総合定期戦/工大祭 P9
- データで見る東北工業大学 P10
- 同窓会からのお知らせ 裏表紙

大

Jin!

大



同窓会会長挨拶

大学創立 60 周年おめでとう。 来年度は当会創立 40 周年です。



東北工業大学同窓会 会長
秋元 俊通 (あきもと としみち)
 1975年 土木工学科卒業 (5回生・菊地研究室)
 現在 株式会社 秋元技術コンサルタンツ
 代表取締役
 土地家屋調査士 秋元俊通事務所 所長
 東北工業大学理事・評議員

まずもって、本年1月1日に発災した能登半島地震で被災された皆様に心よりのお見舞いを申し上げます。13年前の東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）を思い出され、とても他人事とは思えません。一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

さて、日頃よりお寄せいただいております当同窓会へのご理解とご協力とに心より感謝申し上げます。当会々員数も学生会員を含めて約4万8千人となりました。地域支部も北海道、青森、新潟、山形、岩手県北上、関東の6支部、このほかに福島県郡山地区、福島県いわき地区の2地区が活動いたしております。本「工大人」の読者の皆様もいずれかの支部に所属されるようお願い申し上げます。

本年、東北工業大学は創立60周年を迎えました。1学部2学科から始まった大学が現在では3学部8学科に成長いたしました。これまでの諸先生、諸先輩に敬意を表させていただきます。人間でいえば、還暦です。校舎のみならず諸設備なども傷んでまいりましたので、2019年度に始まったTOHTECH2023の一環としての八木山キャンパスの整備事業により、昨年度は新棟一期計画が完成いたしましたし、6号館および7号館からの退去も済み、5号館等の解体が始まります。八木山キャンパスの整備事業への募金については、同窓生から625件のご寄付をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

5号館解体に先立ちまして、6月29日の60周年記念事業の一環として、5号館の見学会が催されました。同日、当同窓会でも、5号館の見学を終えた6地域支部の皆様12名にご参加いただき、地域支部との意見交換会・懇談会を開催し、各地域での会員の発掘と活発な活動を申し合わせました。特に、東



5号館見学会の様子

北工業大学後援会の各支部との連携により、学生会員の郷里での就職先等の開拓を行ない、当該地区の地域力の向上を図ってまいりたいと考えております。

大学より新規卒業生には終身アドレスを付与させていただいておりますので、住所や就職先の変更の際はそちらからご連絡をお願いします。また、既卒の会員の皆様は、是非同窓会のホームページをご覧ください。同窓会や大学の活動状況等をご確認ください。

今年の総会は、工大祭が開催される10月12日(土)に合わせて、昨年に引き続き対面での開催をいたします。特に、来年度は当同窓会創立40周年に当たりますので、その記念事業のご提案、ご検討をいただくためにも奮ってのご参加をお待ちいたしております。

末文になりますが、東北工業大学の益々のご発展と会員皆様のご健勝をお祈り申し上げ、「工大人」発刊に当たってのご挨拶とさせていただきます。



ホームカミングデー及び地域支部との意見交換会



ホームカミングデーセレモニー

記憶する力と 忘れる力

東北工業大学名誉教授
志田 正男 (しだ まさお) 氏
 1968年3月 東北大学工学研究科修士課程修了
 1968年4月 東北工業大学工学部講師
 1974年4月 助教授
 1993年4月 教授
 2004年4月 副学長
 2008年4月 ライフデザイン学部長
 2024年3月 同大学退職、名誉教授



私は工大に1968年4月に赴任し44年間勤務し、2012年3月に退職しました。そのうち40年間は5号館の5階で仕事をしていました。そんなこともあって、6月29日にあった「工大創立60周年+5号館お別れの会」で「5号館での思い出」を話す機会を与えていただきました。10年ぶりぐらいに訪れた5号館は、間もなく取り壊すとのことで、内部を見ると満身創痍でしたが、外観は昔ながらの堂々とした姿で、八木山キャンパスの中であって、長い間多くの学生、教職員の活発な活動を内包してきた、とでもいう存在感を示していました。長い間、人が住んできた町や建物には、そこに刻み込まれた人々の記憶が加わって、何とも言えない味が出るのでしょうか。

「5号館お別れの会」では、私は今でもはっきりと覚えている3つのシーンについて話しました。1つは、78年の宮城県沖地震で破壊された5号館3階の製図室で、ボロボロになったRCの柱を見ながら、学生の作品の採点していた時の心細かったこと。2つ目は、真冬、夕方になると蒸気暖房が切れてしまうため、夜中中、灯油ストーブを炊

き続けて卒業設計をしていた学生達が、一酸化中毒やボヤを出しはしないかと、夜、帰宅しても気になって仕方がなかったこと。3つ目は、研究室で徹夜した時、明け方になって、東遠方に見える牡鹿半島付近の海から出てくる日の出の美しかったことなどです。いずれのシーンも細部までが動画となって、今でもはっきりと目に浮かびます。ところが、その時、一緒にメチャメチャに崩壊した研究室の片付けを手伝い、採点する学生の製図を運び出してくれた学生が誰だったのか、また夜中に、乱雑な室内でストーブを炊き、心配をして見に行った私を見て、「先生、何か差し入れでも持って来てくれたのですか」と、寝ぼけマナコで聞いた学生が誰だったのか？ 研究室で徹夜仕事を手伝って来て、朝方、一緒に美しい光景に見とれながら、コーヒーを入れてくれたのが誰だったのか、どうしても思い出せないのです。40年間（毎年、人は変わるものの）苦楽を共にした助手、研修生諸君の顔や名前を思い出せないなんて、情けないな。人の記憶力なんて、こんなものなのでしょうか？ それとも私がすっかりボケちゃったのかなー？

未来へエスキース し続ける『工大人』

東北工業大学名誉教授
菊地 良覺 (きくち りょうがく) 氏
 1953年 大崎市古川出身
 1976年 東北工業大学工学部工業意匠学科卒業 (井岡研)
 1976年~83年 民間の総合建設業及び建築設計事務所勤務
 1983年 東北工業大学工学部工業意匠学科助手として着任
 2024年 東北工業大学特命教授退任
 2024年 現在
 (東北工業大学名誉教授「地域連携アドバイザー」)



東北工業大学は、今年で60年を迎えましたが、これも一重に『工大人』として多くの卒業生の皆様が存在してきたことによるものであり、これまでに卒業された約4万名余の皆様が実社会で、次世代を育みつつ地域社会に貢献し、大学の存在を高めていることは確かなことと言えます。

私もその同窓の一員としての自覚の基、実社会の経験を活かし、本学における教育・研究及び学事業務等に40年間を過ごしましたが、地域関係のご縁もあり、現在の本学の業務に携わっています。

私の入学時の「工業意匠学科」は、私学での工業系デザイン教育の走りであり、沖縄から北海道まで全国からの入学者と多様な教師陣で構成され、異文化的生活環境の仲間と共に過ごした印象が強く残っております。工業化社会が求めていた新たな工業デザイナー教育は、家電メーカーや車両五大メーカー、工業デザイン関連や建築系事業所等で経営陣の右腕となり、活躍してきた卒業生も多く存在します。

私が本学に採用される契機は、当時の工業意匠学科に卒業生の研究者を育てることから白羽の矢が向けられ、私が30歳の時でした。

工業意匠学科時代では、日本の工業デザインの先駆けとなる秋岡芳夫を学科長に招聘したこともあり『地域をデザインする』というテーマで多くの学内外の教育研究者及び学生との協働による、地域課題解決のための実践的研究の始まりでした。地域デザインは、「ソフト優勢のハード整備」「地域住民との協働による活動」「地を整える」等の基本理念の基の活動であり、現在の私の活動理念の柱となっているものです。

一方、学事として携わってきた業務は、「キャンパス整備関連」であり、約20年間の長期間関与させていただきました。具体的には、『ライフデザイン学部の長町キャンパスへの移転改修計画』・『八木山キャンパス1号館改築計画』・『長町キャンパス3号館、4号館新築計画』・『八木山キャンパス「テクラボ」新築計画』等々ですが、全てが、大学の未来を描いたエスキースによって具現化されたものと言えます。

「未来のエスキースを描く」いう現在の本学のスローガンは、大学自身のものだけではなく、卒業された多くの『工大人』へのメッセージでもあります。卒業生皆様のこれからの未来に向けたエスキースを描かれることを期待しております。

新学科長ご挨拶

情報通信工学課程としての新たなスタート

情報通信工学科

佐藤 篤 (さとう あつし)

1993年 東北工業大学工学部通信工学科 卒業
1995年 東北工業大学大学院工学研究科修士課程 修了
1995年 日本電気株式会社 入社
1999年 東北工業大学大学院工学研究科博士(後期) 課程 修了
1999年 理化学研究所フォトダイナミクス研究センター 入所
2001年 東北工業大学工学部環境情報工学科 助手
2008年 東北工業大学工学部環境情報工学科 准教授
2016年 東北工業大学工学部情報通信工学科 准教授
2020年 東北工業大学工学部情報通信工学科 教授



同窓生に皆様には日頃よりご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今年度より学科長を務めることになりました佐藤篤と申します。

2025年度より工学部は今までの学科制から課程制へと移行いたします。つまり、情報通信工学科という組織はなくなり、工学部の中に情報通信工学課程というカリキュラムが作られる形になります。課程制になると、情報通信工学科がどのように変わるのかを少し説明させていただきます。これまでの学科制では、工学部の各学科がそれぞれの特徴や強みを活かし、教育・研究を行ってまいりました。本学科も、科学技術の進歩や社会のニーズに合わせて、情報通信技術に関する教育内容をアップデートしてまいりました。しかしながら、情報通信分野の未来の

エスキースを思い描いたとき、この分野が単独で発展していくだけではなく、これまで関わりがなかった全く異なる分野で情報通信技術が活用されることによって、新たな技術が創出され、また社会へもより大きく貢献できると考えられます。東北地方は全国に比べ急速に少子高齢化が進行しており、20年後には生産年齢人口と老年人口が逆転する地域が増えると言われております。そのような社会の中で安心・安全な社会を維持し、経済発展を続けていくには、AIやロボットの活用が欠かせません。ただし、ここで重要なのが、従来は知識のある人だけが最新の情報通信技術を使いこなしてきましたが、それではいけないということです。これからの社会では、あらゆる人が情報通信技術の恩恵を受けられるようにしていかなければいけません。ここで必要となるのが課程制での教育です。課程制では、学科間(課程間)の壁が取り除かれ、他学科(他課程)の科目を含めた分野横断型の教育プログラムが用意されます。

情報通信分野の科目をしっかりと学んだ上で、全く異なる分野の科目をいくつか学ぶ。それによって、社会のあらゆる場面に情報通信技術を浸透させるにはどうすればよいのかを学ぶ機会を与え、これから激変する10年後、20年後の社会を支えられる人材を育成してまいります。

このように新たなスタートを切ることになりましたが、課程制移行後も同窓生の皆様方と共に発展していければと考えておりますので、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新学科長ご挨拶

防災減災、国土強靱化時代の土木技術者育成

都市マネジメント学科

菊池 輝 (きくち あきら)

2001年 京都大学大学院工学研究科博士 後期課程 修了
2001年 京都大学大学院工学研究科 助手
2010年 東北工業大学工学部 准教授
2015年 同 教授



東北工業大学同窓会会員の皆様におかれましては、益々のご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本学の諸活動に対し、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。今年度より学科長を拝命し、若輩者ゆえ無事に大任を務められるかどうかという不安もございますが、皆様のご指導を仰ぎつつ、本学の発展のために努力する所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、今年は元日に能登半島地震がおき、多くの方が被害を受けられました。被災されたすべての方々ならびにそのご家族の皆様は心よりお見舞い申し上げます。めまぐるしい技術革新が数多くの社会的課題を解決してきたにも関わらず、私たちは今なお巨大自然災害リスクとともに生きていくしかありません。近年では気象災害も激甚化・頻発化しており、土木工学の研究者としては甚だしい無力感にさいなまれます。私は大学院生として過ごしていた京都で1995年の阪神・淡路大震災を経験し、東日本

大震災を本学着任の約1年後に本学内で経験しました。私はこれらの経験のたびに、絶大な無力感に圧倒されました。東日本大震災から13年、阪神・淡路大震災から四半世紀以上が経過し、私たちの脳は無力感を物語化していくかもしれませんが、土木工学に携わる者としては、「自然の中で我々が暮らしていくために必要な環境を整えていくことを通じて、我々の社会をより良い社会へと少しずつ改善する」という土木工学の目的を決して忘れてはなりません。本学科教員一同、このような意識のもと、社会で活躍する土木技術者の育成に向けて、日々教育に努めています。

1967年に創立された土木工学科から都市マネジメント学科に至る今日まで伝統を引き継ぎ、7千名以上の卒業生を輩出してきました。本学の工学部が学科制から課程制へと移行する2025年4月には本学科も58周年を迎え、この機に、都市工学課程へと名称を変更することとなりました。社会経済状況や価値観の変化などを考慮した結果ですが、何よりも、「総合性」という土木工学の原点に立ち、「人々が互いに協力し、安全で安心な、より良い都市を築くための学問」であることを社会に広く認識してもらうという企図が、名称変更の背景にあります。課程制移行後も、土木工学を学問基盤に据えつつ、防災・減災、国土強靱化新時代に貢献する土木技術者を育成してまいります。引き続き倍旧のご支援を賜りたく、切にお願い申し上げます。

末尾となりましたが、同窓会を始めとする本学関係の皆様方の今後ますますのご発展とご健康をお祈りし、新学科長としての挨拶とさせていただきます。

新学科長ご挨拶

建築学部・建築学科 および建築学専攻の近況

建築学科

船木 尚己 (ふなき なおき)

2002年4月 東北工業大学 工学部建築学科 講師
2013年4月 " " 准教授
2017年4月 " " 教授



同窓生の皆様には日頃よりご支援を賜り心より感謝申し上げます。今年度から学科長(専攻長)を務めることになりました、船木尚己と申します。

今年度もおかげさまで学科定員135名を上回る入学生を迎える事ができました。また、この春に建築学部の第一期生を送り出すことができました。大学院進学者も年々増加傾向にあります。建築学部の完成年度を迎えた今年度、大学院も建築学研究科として工学研究科から独立し、学位も「工学」と「建築学」から選択できるようにするなど、建築学科・建築学専攻の教職員が一丸となって社会の変化や多様性、増加する自然災害等に対応できる仕組みの構築に取り組んでいるところです。

建築学科の学びの場として学科設置当時から使われてきた5号館が、老朽化のため解体されることと

なりました。6月29日には、本学創立60周年記念イベントの一環として、卒業生や元教員など、学内外から多くの方にご参加頂き、ホームカミングデー「ありがとう5号館・さようなら5号館」が開催されました。式典後に5号館の見学会が行われ、学生時代を過ごした教室や研究室を懐かしそうに見て回る姿が見られました。また、入口の壁に描かれた「ありがとう5号館」の文字のまわりには、5号館への感謝や思い出の寄せ書きをしていただきました。

5号館は半世紀以上にわたったその役割を終え、新しく生まれ変わるために解体されますが、綿々として受け継がれてきた歴史や伝統、そして本学への愛校心は、やがて誕生する新校舎、ここで学ぶ学生たちにも引き継がれていくことを期待します。

今後も建築学科の更なる発展に向けて、一丸となって努力していく所存です。同窓生の皆様には引き続きご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



新学科長ご挨拶

人を結び、まちを創る

生活デザイン学科

岸本 誠司 (きしもと せいじ)

2005年 東北芸術工科大学東北文化研究センター 専任講師
2015年 鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会 主任研究員
2021年 東北工業大学ライフデザイン学部 生活デザイン学科 教授



同窓生の皆様には日頃よりご支援いただき感謝申し上げます。今年度から学科長を拝命いたしました岸本誠司と申します。

本学科が「生活デザイン学科」と改称して5年が経ちました。この間、定年によって4名の教員がご退職され、新たな教員が加わりました。世代交代によって教員の年齢が若返るとともに、生活福祉・生活環境・生活文化という3分野による教育・研究環境を整えました。生活デザイン学科は1学年約90名の学生からなります。近年では大学院進学者も増加しつつあり、現在修士課程に5名が在籍し、来年度も複数名の進学予定者が決まっています。新体制のもと、学部から大学院まで連続した教育・研究環境が整いつつあります。

この春、本学科では「人を結び、まちを創る」という新たにスローガンを掲げ、紹介映像を制作しました。肖像権の配慮によって広く一般には公開をしていない映像ですが、同窓会の皆さまにはこの機会にぜひご紹介させていただきたいと思っております。下記QRよりご覧ください。

映像に登場するのは、福祉・環境・文化の3つの領域で学びを深め、社会で活躍している学部生・大学院生・卒業生たちです。登壇者それぞれの言葉で本学科の魅力や研究活動、社会での活躍などが語られており、本学科への進学を検討する高校生や初年度学生たちにとって、将来の自分の姿をイメージすることのできるよい資料となっています。

コロナ禍による行動制限がなくなったことにより、地域や人との距離が縮まりつつあります。学科の教育プログラムにおいても、あらためて地域に接近し、多くの人の体験に耳を傾ける機会を増やしているところです。学科が提供する多様な学び、地域や人と向き合う経験を通して、持続可能な社会に必要なとされる「生活デザイナー」の育成に取り組んでいます。



QRコード▶

支部活動等報告

青森支部

令和6年度活動報告

同窓会青森県支部事務局

工藤 孝喜 (くどう こうき)

1986年 土木工学科(伊藤孝雄研究室)
現在 有限会社東豊設計

東北工業大学同窓会の皆様方及び関係各位の皆様方においては、お元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。さて、東北工業大学同窓会青森県支部では令和元年度以来5年ぶりとなる同窓会を行う運びとなりました。

青森県内の把握出来ている同窓会員様173名への案内状の送付(28通宛名不明、59名の回答、86名の音信不通)同窓会の次第内容、時間の配分、来賓者の名前の整理外精査等、準備を青森県支部幹事及び、仙台事務局の高橋次長のお力を借りて進めてまいりました。

令和6年6月1日土曜日午後5時30分より、青森県支部より24名、東北工業大学より7名、東北工業大学後援会より2名 総勢33名の参加(前回令和元年は48名)の若干少人数ではありましたが、5年ぶりの会を行うことができました。同窓会開始前に今野弘東北工業大学名誉学長・同窓会特別顧問より令和6年3月31日で募集終了をしたTOHTECH2023募金の御礼の挨拶と引き続きの東北工業大学への支援のお願いのお言葉がありました。

山形支部

第2回総会・講演会・懇親会を開催しました

同窓会山形県支部支部長

松田 隆志 (まつだ たかし)

1977年 木工学科卒業(7回生・高橋(連)研究室)
現在 升川建設株式会社 庄内営業所所長

東北工業大学同窓会、在学生の皆様暑い中お元気でお過ごしでしょうか。

当山形支部は2019年11月9日に設立されましたが、ご存知の通り次の2020年から新型コロナウイルスの影響でほとんど活動が出来なくなり、毎年開く予定の総会、2年ごとの役員改選も行うことができませんでした。

しかし今回大学、同窓会本部、後援会の皆様のご助力もあり2023年11月3日ホテルメトロポリタン山形で4年ぶりに第2回総会を開催しました。総会では役員改選が行われ、大変なコロナ禍の4年間に大役を果たされた初代仲川昌夫支部長の後任と致しまして第2代山形県支部長にわたくし松田が選任されました。支部設立時に仲川支部長のご指導の下に副支部長にさせて頂き、事務局長の石山様に助けられながら支部の

同窓会青森県支部としては会委員様40名の賛同と20万円をTOHTECH2023に協力する事が出来ました。

同窓会は福土直治青森県支部長の挨拶で始まり渡邊浩文学長の来賓祝辞、倉橋純造青森県支部顧問の乾杯の音頭で和やかに歓談、名刺交換が行われていきました、途中で石井敏副学長・建築学部長によりプロジェクターを使用して大学の近況報告をしてもらいました。

余興としての東北工業大学に関するクイズ大会では工大野球部の仙台六大学野球連盟での優勝回数(4回)、渡邊学長が何代目の学長か?(10代目)等マニアックな出題もあり大変盛り上がりしました。最後は校歌を参加者全員で歌い2時間の予定時間があっという間に過ぎるほど、楽しい同窓会でした。

同窓会会員と関係各位の方々には遠方よりの出席をいただきまして誠にありがとうございました。また次回も元気な姿でお会いしたいと思います。



運営をお手伝いさせて頂いておりました。この貴重な経験をもとにして、仲川会長が進めてきましたこの若い山形県支部を先ずは、「今後も長く続けていけるように軌道に乗せる」という目標を達成し、後輩の皆様にお渡しできるように努力していく所存です。

総会後は菊地先生による「近況報告 八木山キャンパス施設整備事業の現状と今後」と題した講演をして頂きました。その後懇親会を開き皆様との歓談をして楽しいひと時を過ごしました。

今後ともどうか、この若い山形県支部に諸先輩の皆様、後輩の皆様、教職員、後援会、同窓会本部の皆様のお力お貸し頂けますよう、お願い申し上げます。



関東圏支部

近況報告2024年8月

東北工業大学同窓会関東支部支部長

井出 幸成 (いで ゆきなり)

1972年 工業意匠科卒業
現在 Redwood Project Japan株式会社代表取締役

振り返ると関東圏支部の設立は2019年11月23日如水会館で関東圏円卓会議を行ったのが発端で、今から5年前、令和元年の話です。

幹事会の集まりはその後、2020年12月に一回行いましたが、そこから二年後の2022年、ようやく動き出した23年24年、会則を整え、昨年は12月7日関東圏支部総会を開くことになりました。(写真:建築学科卒業生集合)これも同窓会本部の援助と大学からの協力があってこそだと感謝しております。

世界的なコロナの流行を経て、日本国内はインフレに突入しております。このような世界の変革期に東北工業大学卒業生の同窓会関東圏支部が立ち上がり、卒業生同士の情報の共有、デジタル化への協力体制、そして日本人の得意とする物づくりの情報を長年培ってきた卒業生の底力を世間に示してゆきたい!!!

なんて大きなことを言いましたが、東北工業大学ここにあり精神を発揮して関東圏支部の益々の発展と社会への貢献を後押しできれば・・・なんて!

次回の関東圏支部総会を楽しみに、変革を次代に同窓会の情報共有を!

職域支部「高原会」

本会は、宮城県内高校教員の交流を目的とする、同窓生有志の会として発足いたしました。東北工業大学同窓会から打診をいただいた事を契機として、平成28年東北工業大学同窓会職域支部に加盟いたしました。その後、職域支部として同窓会に出席して参りましたが、令和2年の新型コロナウイルス感染症の流行により3年間活動を中止していましたが、5類移行を受け、今年度より改めてスタートをいたしました。

令和6年7月20日(土)15時から東北工業大学八木山キャンパス1号館121教室において、学長 渡邊浩文様、入試広報課長 岡達三様、総合教育センター片山文雄様をお迎えし「高原会総会」を開催しました。渡邊学長からは「高原会」に対して心温まるメッセージ、岡課長からは入試等の情報提供をいただきました。その後の会議では、高原会の創立から現在に至るまでの報告の後、会則・活動計画・収支予算・新役員案などの審議を行い全て承認されました。

今回の総会には、令和元年4月から令和6年4月に採用されたフレッシュな先生方、働き盛りの中堅の先生方、勇退後の先生方も出席され、今昔の教育の情報交換等が行われました。

総会終了後は、場所を仙台駅前に移動し、懇親会を開催しました。懇親会では、昨年退職された高橋秀幸

関東圏の皆様12月7日お集まりください!!
開催日時:2024年12月7日(土)11時~15時
開催場所:喜山倶楽部
(東京都千代田区一ツ橋2-6-2
日本教育会館9F TEL 03-3262-7661)

内容(予定):11時~12時 総会、
12時~12時30分 講演
13時~15時 懇親会

懇親会参加費:6,000円

当日、受付時に窓口担当者へお支払いください

申込先:t.kodai.kanto2023@gmail.com

記載事項 ①お名前/②出身学科/③卒業年/
④現在の所属(勤務先など)/
⑤懇親会参加有無/⑥連絡先(携帯TEL)/
⑦Email アドレス

※お知らせいただきました個人情報につきましては、本会でのみ使用いたします

※当日、参加者名簿(①~⑤のみ表記)を配布する予定です



監事を中心に、楽しく時間を過ごしました。

今後は、新役員体制のもと、大学との連携・協力を推進し、教員を目指す学生への情報の提供や支援等を実施し、高原会の発展に努めて参りたいと存じます。

(文責 事務局長 齋藤一豊)

東北工業大学卒業生教職員の会「高原会」役員名簿					
役職	氏名	備考	役職	氏名	備考
会長	鈴木 伸一	電子	事務局長	齋藤 一豊	建築
副会長	萩野 元彦	通信	会計	本橋まり子	建築
副会長	西尾 正人	建築	事務局員	鈴木 聡	電子
幹事	石岡 恒一	建築	事務局員	村上 誠	土木
幹事	杉山 秀樹	通信	事務局員	小林 恭介	建築
幹事	三浦 智	電子	事務局員	北川 莉奈	通信
幹事	高橋 千秋	通信	事務局員	菅原 直人	通信
監事 (会計監査)	高橋 秀幸	建築	事務局員	笠原 義樹	建築



総会



懇親会

工大杜の会（土木系学科同窓会）

工大杜の会は、東北工業大学開学から3年後1967年に新たに開設された「土木工学科」の同窓生が学科同窓会として活動したことが原点となります。後に名称を「杜の会」（土木の会）に改め、会員相互の親睦を深めることおよび東北工業大学同窓会の発展に寄与することを目的として、先輩方から引き継いで活動を続けております。時代の流れとともに学科名称が「土木工学科」から「建設システム工学科」、「都市マネジメント学科」へと推移する中で、大学院工学研究科土木工学専攻卒業生や学科関係有志も交え、世代の垣根を越えた気軽に楽しく情報交換ができる場として「工大杜の会の集い」を毎年開催しております。東北工業大学同窓会学科HP（杜の会）に会則・情報がありますのでご覧ください。

《工大杜の会活動報告》

定例会議：令和6年6月22日（土）八木山キャンパス133教室において「令和6年度工大杜の会定例役員会」を対面・オンライン併用で開催し、「令和5年度活動報告・会計監査」および「令和6年度活動計画・予算案等」を採択しました。

また、今年度は役員改選年にあたり、新役員を選出しました。

工大杜の会の集い：令和5年10月21日（土）テンザホテル仙台ステーションにて85名（教員7名、学生12名含）の参加により4年ぶりとなる「集い」を開催。参加者は久々の再会に歓喜しながら有意義な時間を過ごしました。



《令和6年度 第18回「工大杜の会の集い」開催のご案内》

今年も『工大杜の会の集い』を開催します。参加希望の方は、東北工業大学同窓会HPから 工大杜の会HP にアクセスし、「令和6年度 東北工業大学『工大杜の会の集い』案内」を確認のうえお申込み下さい。

日時：令和6年10月26日（土）
17:00～19:00

会場：仙台サンプラザ

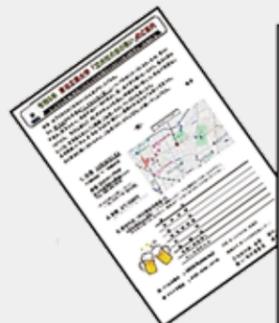
会費：7,000円（当日会場にて）

※メール申込先：h69241@yahoo.co.jp

西野博貴 宛（工大杜の会 幹事長）

※FAX申込先：022-305-3715

齋藤圭司 宛（同副幹事長、工大技術支援センター）



工大杜の会
(土木系同窓生)
役員募集
(新たな繋がり・楽しみを見つけ人生を謳歌しましょう！)
連絡窓口
h69241@yahoo.co.jp
幹事長：西野博貴

尚建会（建築学科同窓会）

建築学科同窓会・尚建会の活動

野津 弘 (のづ ひろし)
1976年 建築学科卒業

本年度の活動は5月の建築学科OB.OGから寄贈された本を本年度の新入生に寄贈する「建築を学び始めるあなたに贈る1冊の本プロジェクト」が本年度も卒業生の皆様のご協力で開催出来ました。次年度に向けて本の募集活動を12月には開始致しますので皆様のさらなるご協力をお願いいたします。このイベントに合わせて工大一番町ロビーで「100冊とブックキャンプ」と題した本のプロジェクトのスピンオフイベントも開催いたしました。河北新報でも取りあげられ、大勢の方にご来場いただきました。

3年生の授業「建築プロフェッショナル論」には建築学科のOB.OG12名の方々に登壇していただき仕事、会社のお話と職業の選択について貴重な講義をしていただいております。この講義の中では尚建会主催でイントークと云うコーナーも運営してきました。この講義に参加いただいたOB.OGの皆さんと建築学科の教員、尚建会役員の懇親会も初めて開催いたしました。

6月の総会及び懇親会、親睦ゴルフ大会、と続き、この8月には船木学科長をお招きして第4回の尚建会サロンを開催いたしました。この他に年2回（10月・3月）の尚建会ニュースの発行や建築学科と協働で「東北を支える建設関連企業との交流会」を12月に開催いたします。多数のOG・OBと所属企業の皆様と就職を控える3年生、修士1年生との交流の場となり職業への理解が深まることを期待したいと思っています。また、卒業式に併せて成績・設計の各部門で優秀な成績を修めた学生さんに尚建会大賞・尚建会賞の授与を本年も予定しています。

今後とも全学同窓会の支援をいただきながら尚建会が学生さんと卒業生、教員と卒業生、卒業生同士、ひいては大学と社会を繋ぐ役割を担っていく事を目標に活動を続けてまいります。



プロフェッショナル論 講師・教員懇親会



ブックキャンプ



プロフェッショナル論イントーク



卒業設計審査会（尚建会大賞・尚建会賞）

「TOHTECH2023募金 ―協創する知の杜を目指して―」 実行委員会からの報告と御礼

委員長 今野 弘

標記事業は、本学教職員や同窓生を中心とする実行委員会の編成のもとに、大学の「TOHTECH2023」計画を支援する事業として、同窓生、在学生の愛校心を育み、社会との絆を深めることを意図して2019年度から5か年間にわたり活動し、2024年3月31日をもって終了いたしました。

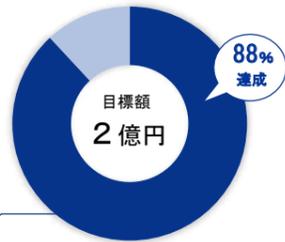
この間、新型コロナウイルスの蔓延により、活動は大きな制約を受けましたが、多くの方々のご理解、ご協力を得て、所期の寄付目標近くまで到達することができました。改めて事業に関わった多くの方々に深くお礼申し上げます。

本事業で意図した同窓生等の愛校心の醸成そして社会との絆を深める活動が今後とも継続され、本学の発展に寄与することを期待しております。

「TOHTECH2023募金」結果

目標額：2億円 募集期間：2019年11月～2024年3月

みなさまの
温かいご支援に
感謝申し上げます。



申込金額 1億7,600万円 (2024年3月末日)

【属性内訳】

個人様	団体様	法人様
同窓生 625件 25%	51%	24%
保護者 114件 969件 一般 23件	10件	73件
4,400万円 学内関係 207件	9,000万円	4,200万円

※申込金額は百万円未満を四捨五入して表示しています。

※申込件数は延べ数で計上しています。

歓喜の総合優勝！ 北海道科学大学・東北工業大学 総合定期戦

8月20日(火)、21日(水)に第39回総合定期戦が北海道科学大学で開催されました。コロナ禍による制約もあり、北の大地での開催は2020年以来となりました。

本学からは学生、教職員、学外指導者を含め約200名が参加し、全12競技13種目で熱戦が繰り広げられました。勝敗の行方が最後まで分からない接戦となりましたが、本学学生は一步も引かず強い結束力で戦い抜きました。



そして最終種目のバスケットボールで勝利を収め、7勝6負の成績で第23回(2008年)大会以来の総合優勝を達成しました。

また、20日(火)には同窓会北海道支部と本学関係者、秋元同窓会長、今野同窓会特別顧問(前学長)による懇親会が開催され、大いに盛り上がりました。

種目	東北工業大学	北海道科学大学
サッカー	○ 2	● 1
ソフトテニス	○ 3	● 0
硬式テニス	● 3	○ 4
バスケットボール	○ 91	● 81
剣道	● 1	○ 2
柔道	○ 4	● 0
アメリカンフットボール	● 6	○ 22
男子バレーボール	○ 3	● 0
女子バレーボール	○ 2	● 0
ハンドボール	● 18	○ 24
弓道	○ 40	● 37
バドミントン	● 2	○ 9
卓球	● 2	○ 5

第49回工大祭『祭高潮』 10月12日(土)～10月13日(日)



第49回工大祭のテーマは『祭高潮』です。「みなさんの心に残る祭りの1つになってほしい」という願いと、大学祭に関わっていただくすべての方々と共に「この上ない高揚感を感じてもらえる工大祭をつくりあげたい」という想いを込めました。

10月12日(土)は「カシスオレンジ」「BREAQQQL」「宮城のおーちゃん」によるステージパフォーマンス、10月13日(日)は「にしな」によるコンサートなどたくさんの企画を用意していますので是非お越しください!!

詳細については、第49回工大祭 Web サイトにてお知らせいたします。

データで見る東北工業大学

VOL.04 2024年6月

Overview of Educational Outcomes Based on the AEGG Policies at Tohoku Institute of Technology

「データで見る東北工業大学」公式ゆるキャラ3兄妹

創立60周年

60th ANNIVERSARY

1964年 2024年

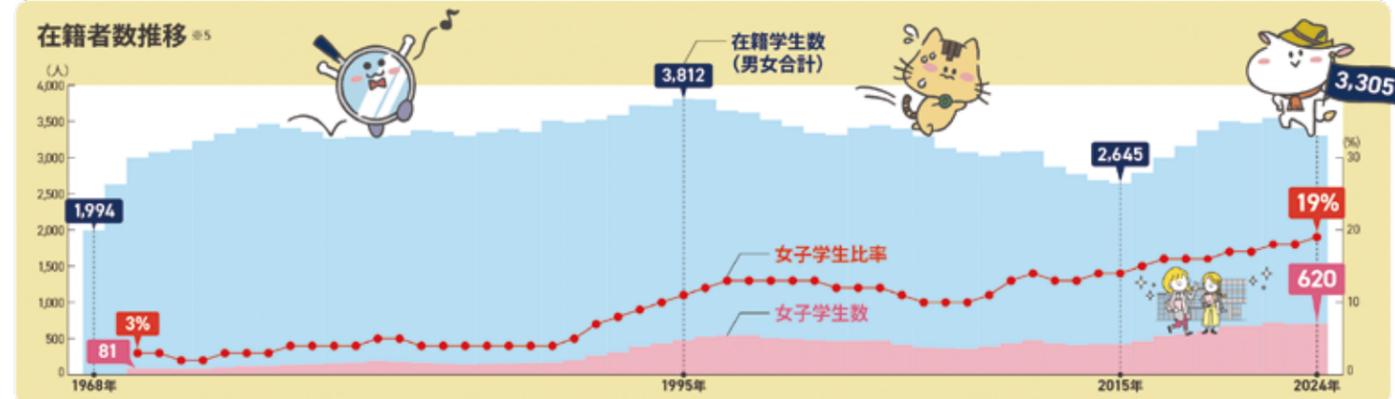
TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY

9年連続定員充足
入学定員充足率
104%

専任教員数
115名

東北出身者^{※4}
96%

198名
145名 279名
253名 2,082名
他県 141名 207名



むかし(1964年～1970年頃)	いま(2023年～2024年)	60年の歩み	
学生数(1970年度) 97% ^{※4} 男性 3,001名 3% ^{※6} 女性	学生数(2024年度) 81% ^{※4} 男性 3,305名 19% ^{※6} 女性	これまでの総入学数 ^{※11} 祝入学 大学院 1,015名 学部 48,239名	これまでの総卒業数 ^{※12} 祝卒業 大学院 852名 学部 39,427名
1学部 2学科 1キャンパス (1964年度)	3学部 8学科 2キャンパス (2024年度)	サークル数(1964年度) 16団体	サークル数(2023年度) 60団体
就職率(1968年度卒) 100% ^{※6}	就職率(2023年度卒) 99% ^{※7}	授業時間(1964年度) 100分/1コマ 月～土 4コマ/1日 30週/年間	授業時間(2024年度) ^{※10} 100分/1コマ 月～金 5コマ/1日 28週/年間
実家暮らし率(1968年度) ^{※8} 50%	実家暮らし率(2023年度) ^{※9} 64%	卒業率 ^{※13} 88%	本学出身社長 ^{※14} 543名
		卒業生の本学満足度 ^{※15} 満足 93%	

東北工業大学同窓会 第40回定時総会について

開催日：令和6年10月12日（土）

今年度の同窓会定時総会は、下記により開催いたします。当日は同窓会総会の他、工大祭及び懇親会などの行事を予定しております。併せて皆さまのご出席をお待ちしております。よろしくお願い申し上げます。

当日のスケジュール

- 1) 10:00 ~ 工大祭
- 2) 14:30 ~ 15:30 **同窓会第40回定時総会**（会場：八木山キャンパス1号館2階）
 - (1) 令和5年度会務・事業報告について
 - (2) 令和5年度決算報告・監査報告について
 - (3) 令和6年度事業計画（案）について
 - (4) 令和6年度予算（案）について
- 3) 17:00 ~ 18:30 懇親会（会場：ホテルメトロポリタン仙台）

申込が必要です。同窓会事務局に、卒業年、学科、氏名を記入の上、FAX、E-mail のいずれかの方法で、10月7日（月）までに、ご連絡ください。

会費：3,000円（当日会場でお願いいたします）

東北工業大学同窓会事務局 mail: dousoukai@tohtech.ac.jp
FAX: 022-305-3337



新たなネットワークをめざして

東北工業大学 同窓会

事務局 東北工業大学キャリアサポート課内
〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1
TEL.022-305-3336 / FAX.022-305-3337

同窓会Webサイト

<https://koudai-dousoukai.net/>

